11 月 25 日(日)下田まち協防災部主催「避難場所開設準備訓練」を行いました。

今年に入ってから 6 月の大阪北部地震、9 月の北海道胆振（いぶり）東部地震、台風 21 号による豪雨災害等、災害のニュースが後を絶たない平成 30 年となりました。いつどこで起こるかわからない災害。まだまだ危機感がない私達。こうした訓練により、少しでも災害に対する心構えができればと思い、今年も下田小学校で避難場所解準備訓練を行いました。

場所：下田小学校体育館

下田まち協峰会長より挨拶がありました。

下田学区まちづくり協議会役員、防災部、各区長、各区ふるさと防災チーム、民生委員・児童委員、消防団第三分団、小学校校長・教頭先生等が続々と駆け付けていただきました。

上西防災部長による、今回の訓練の趣旨やスケジュールの説明がありました。

小学校内防災設備関係の視察

「防災井戸」が設置されています。水が出ない状態でしたが、改善され、冷たい水が出るようになりました。ただ最低一週間に一度水を出さないと詰まるおそれがあるそうです。

防災倉庫には、毛布、特設公衆電話、保存水等があります。まち協が調達した間仕切りも入っています。まだまだ充実する必要がありますので今年度も購入する予定です。

倉庫が仮設トイレになります。

「かまどベンチ」です。炊き出しに利用されます。

汚水槽の上に囲いを設置し、簡易トイレに利用できます。三カ所が直線上に並んでいます。

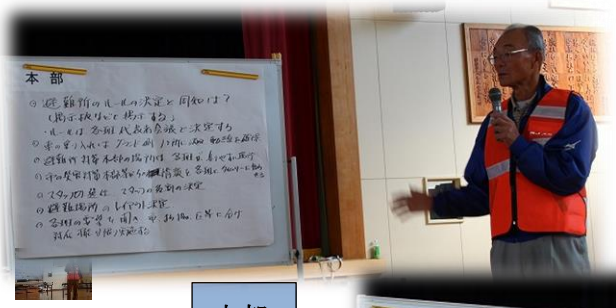
体の不自由なお年寄り達の避難に適した場所等を考慮しながら、小学校校内を視察しました。

うさぎ小屋ですが、ペットの避難所にも使えるそうです。

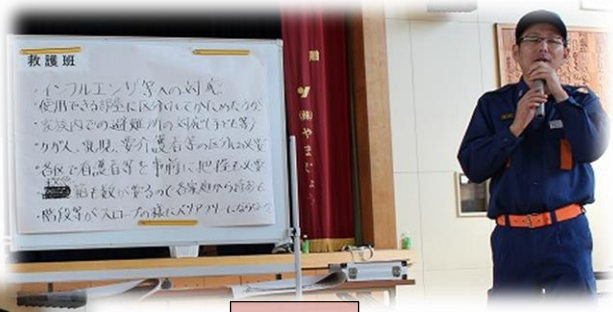
避難場所運営の問題点を班毎に分かれて意見を出し合いました。

班毎に問題点を出し合って、模造紙に書き上げていく作業を行いました。

模造紙にまとめられた問題点を発表しました。

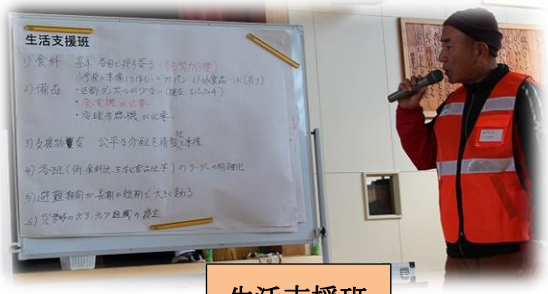


本部

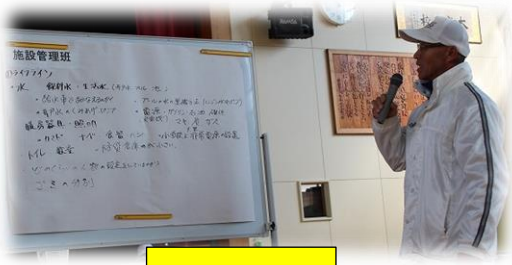


救護班

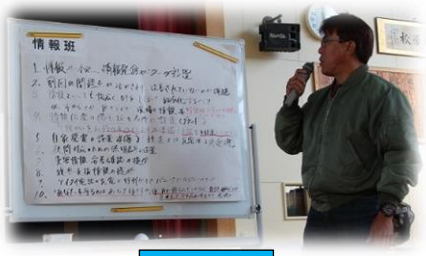
受付班



生活支援班



施設管理班



情報班

各班から出された意見や問題点

本部

- 避難所のルールの決定と周知は？（掲示板などに掲示する）
  - ルールは各班代表者会議で決定する
- 車の乗り入れは、グランド側1ヶ所に絞り動線を確保
- 避難所対策本部の場所は、各班が動やすい場所
- 市の災害対策本部等からの情報を各班にタイムリーに知らせる
- スタッフの選任、スタッフの役割の決定
- 避難場所のレイアウト決定
- 各班の要望を聞き、市、町、他、区等に合せ対応可能な限り実施する

受付班

地区ごとに受付用紙を分ける（場所は正面玄関と体育館入口あたり）

受付のための用紙を作っておく（名前・歳・性別・車で来た場合はナンバー・その他特記事項）

養生テープで名札とする（受付済みかの確認・部外者の防止）

救護班と連携して要支援者等の対応

誰でも受付できる準備をしておく（防災倉庫に用紙5枚ずつ9区分、筆記用具（やすり）名札用の養生テープと油性マジック）

スタッフとして手伝いをお願いできるかどうかの確認と、どこに案内されているか用紙に書いておく。

救護班

- インフルエンザ等への対応
- 使用できる部屋に区分けしておくほうが
- 家族内での避難所の対応（子ども等）
- ケガ人、乳児、要介護者等の区分は必要
- 各区で看護者等を事前に把握も必要
- 救急箱も数が要るので各家庭から持参を
- 階段等がスロープの様にバリアフリーにならない

生活支援班

1) 食料　基本：各自で持ち寄る（各自努力目標）
小学校に準備してほしい＝カンパン・レトルト食品・水（有り）

2) 備品
- 区割ダンボールが少ない（現在：5パック×4）
- 発電機が必要
- 冷暖房器機が必要

3) 支援物資　公平な分配を情報班と連携

4) 各班（例：食料班、生活必需品班等）のリーダーの明確化

5) 避難期間が長期か短期で大きく変わる

6) 災害時のボランティア組織の設立

施設管理班

①ライフライン
- 水　飲料水・生活水（井戸水・プール・池）
  - 給水車でまかなえるのか？
  - 井戸水のくみあげポンプ
  - プールの水の運搬方法（エンジン水中ポンプ）
  - 電源・ガソリン・石油確保（発電機）
- 暖房器具・照明　マキ・炭・ガス
  - カマド　ナベ・食器・ハシ
  - 小学校に非常電源の設置
- トイレ・数量
  - 防災倉庫数が小さい。
- どのくらいの人数の設定をしているのか？
- ゴミの分別

情報班

1. 情報の一本化、情報発信センターの設置
2. 前回の問題点が活かされず、改善されていないのが課題
3. 情報といっても、幅広く、多岐にしぼって、細分化するべき
   例、市からとか、区からとか、現場の情報等 情報班で窓口を設置しメンバーが対応
4. 情報伝達の掲示板を各所に設置（グランド）
   ↳ 障がいをお持ちの方の伝え方の準備（手話等を対応したポスター）
5. 自家発電の設置・準備等（放送又は充電用）緊急時
6. 夜間対応のための照明器具の設置
7. 災害情報・安否確認の提供
8. 復興支援情報の提供
9. ケイタイ電話の充電に行列ができパニックにならないのか!!
10. 「あなたを守るのはあなた自身です」市・区に頼るのではなく自助・共助 隣近所で力を合わせるのが解決。

大変活発な議論で貴重な意見が多く出されました。一昨年と今年の意見等をまとめ、今後のマニュアル作りの参考にしたいと思います。参加者の皆さん大変ご苦労様でした。今後の活躍に期待します。